

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館 〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

- 読書 ――別世界あるいは対話への招待――..... 1
- 教員の本棚から..... 3
- 私のおすすめ本..... 3
- 令和4年度 図書館報告 4

読書 ――別世界あるいは対話への招待――

子ども教育学科 特任教授 柳谷豊彦

遠い記憶

50年以上も前のことになる。校舎はとうに跡形もなく、現在は市の二つの文化施設を抱く公園の植栽エリアとなっている。かつてその地にあった木造の高校旧校舎の中でも、その建物、あの一角は特別だったように思う。正門を入り右手にあったのが図書館で、いかにも重厚な講堂風の造りだったように記憶している。ガラス窓部分を除いた壁一面、書架が高く伸びていた。背文字もラベルも読みにくいような本が少なくなく、古色蒼然としたたずまいの中、静謐な空気がすみずみまで広がっている。

それは高校生の自分にとって奥深く、どこか近寄りがたい空間であった。一方で、書架の前に立つと本の中に何かがいてこちらを窺いながら親しく語りかけてくる、そんな思いにも駆られた。拒否（距離）と誘惑（親和）――図書館なるものに対しては、アンビバレントな感情があったようだ。

＊

その日は市立図書館で井上清『日本の歴史 上』（岩波新書）を開いていた。持ち込みの受験参考書にしていた。薄暗くなった頃だったろうか、一緒に来ていた友人が顔色を変えながら教えてくれた。三島由紀夫が東京・市ヶ谷の自衛隊内で決起を呼びかけ、腹を切って自殺した、と。昭和45（1970）年11月25日、高校3年の秋のことであった。「豊饒の海」四部作（『春の雪』『奔馬』『暁の寺』『天人五衰』）に挑戦したが、圧倒的な美文にあえなく撥ね返されたのは、その2年後だったか…。

授業びらき

…などとだいぶぼやけた思い出から目覚めると、半世紀後の近景がしだいに焦点を結んできます。

3年前から子ども教育学科に司書教諭資格取得科目が設けられ、その一つ「読書と豊かな人間性」を担当しています（2年次前期）。大元となる学校図書館司書教諭講習規程には、「児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る」というねらいが示されています。

授業びらきでは「読書の意義と目的について」などと大段に構えながら、実のところメタ読書（読書について書かれたものを読む）を題材にします。『源氏物語』に恋い焦がれた少女時代を、老境に至った現在から遠望する菅原孝標女の『更級日記』。擬人化された主人公の本が幾人もの手から手へと渡り、それぞれの人生のひと時に立ち会う石田衣良の短編「旅する本」。18歳の時に古本屋に売ったはずの本とその後、世界を巡る旅の先々で出会い、その度に自分の中身（成長の有無）に思いをはせる、角田光代の同じく「旅する本」。そして小川洋子『ミナナの行進』の次の一節を含む部分です。

ただ一つの例外は本だった。ミーナが読みかけの本を、サンルームのテーブルに開いたまま伏せて置いてあったとしても、米田さんは決して勝手に片付けたりしなかった。ページの反対側にはまだ見ぬ世界が隠されており、本はその伏せられた形によって、残りの世界に戻るための入り口を示しているのだから、無闇に触れてはならない。

令和4年度 図書館報告

資料の構成

(令和5年3月31日現在)

1. 図書	蔵書数	128,657冊
	年間受入冊数	537冊
2. 雑誌	所蔵雑誌種数	257種 (内国誌 213種, 外国誌 44種)
	年間受入雑誌種数	104種 (内国誌 95種, 外国誌 9種)
	新聞種数	11種 (内国誌 7種, 外国誌 4種)
3. その他	視聴覚資料所蔵数	1,466点
	データベース	Academic Search Elite, PsycINFO, 医中誌web, MAGAZINE PLUS, 国立国会図書館デジタル化資料サービス, 朝日新聞クロスサーチ, 河北新報データベース, 山形新聞記事データベース

利用状況

1. 開館日数 247日
(参考: 令和3年度 228日)

2. 入館状況
(1) 月別入館状況
入館者数(延べ数) 77,226人
(2) 一日平均入館者数 313人

3. 館外貸出状況
(1) 学科・月別館外貸出冊数
年間貸出冊数 3,490冊
(参考: 令和3年度 3,215冊)
: 令和2年度 3,367冊)

(2) 一人当たりの年間貸出冊数推移

参考

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
子ども教育学科	4冊	4冊	4冊
人間関係学科	3冊	3冊	-
留学生別科	0冊	0冊	0冊
子ども学科	10冊	8冊	9冊
現代福祉学科	1冊	2冊	2冊
本学平均	5冊	5冊	5冊

サービス提供状況

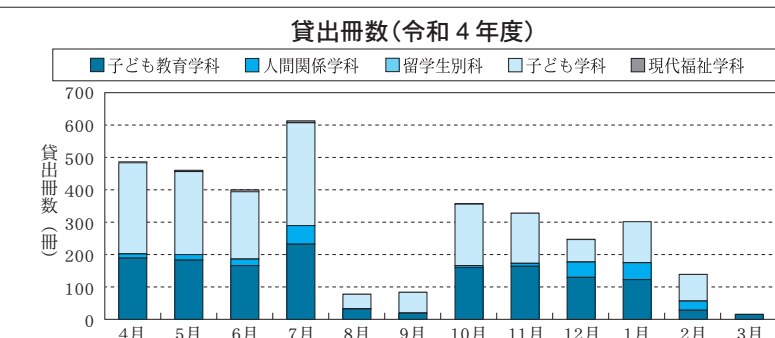
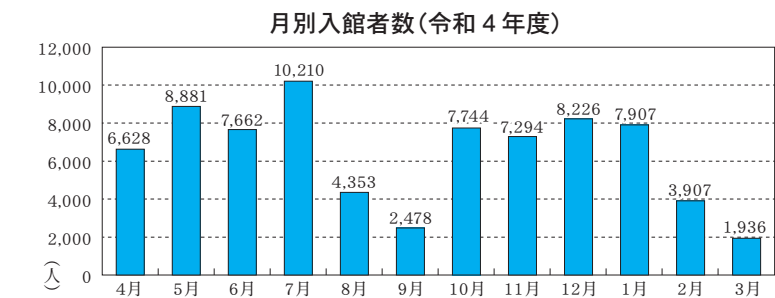
1. 相互協力業務
(他大学から文献取り寄せ・または提供する件数)

図書借受冊数 11冊
(参考: 令和3年度 5冊)
図書貸出冊数 8冊
(参考: 令和3年度 0冊)
複写取寄件数 51件
(参考: 令和3年度 49件)
複写提供件数 0件
(参考: 令和3年度 6件)

2. 学内文献複写 複写枚数 586枚
(参考: 令和3年度 440枚)

3. 学内参考業務 受付件数 78件
(参考: 令和3年度 99件)

4. 貸出ノートPC 貸出件数 784件
(参考: 令和3年度 793件)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子ども教育学科	188	182	165	231	32	19	159	163	129	122	28	15	1,433
人間関係学科	13	17	20	57	1	0	6	9	47	52	28	0	250
留学生別科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子ども学科	280	255	207	316	44	64	189	154	69	126	82	0	1,786
現代福祉学科	3	4	6	6	0	0	1	0	1	0	0	0	21
計	484	458	398	610	77	83	355	326	246	300	138	15	3,490

令和4年度 新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

1. 開館状況 ※消毒作業のため1時間短縮して開館
(通常) 平日 8:30~18:00 土曜 9:00~16:00
(授業日) 土曜 8:30~17:00

2. 開館時の利用制限
・AVコーナーでのヘッドホン貸出休止
・集密書架の利用制限(3名まで利用可能)
・グループ学習エリアの座席減少

3. 館内の感染対策
・館内の換気
・入口への消毒液の設置、カウンターへ飛沫防止対策板の設置
・返却された書籍、PC等の消毒
・3密での利用、マスク未着用での利用時の注意
・閉館後、1時間かけ、机、椅子等接触する箇所の消毒

〔令和5年度より開館時間を戻し、学外者の利用も再開する。〕
〔なお、館内の感染対策は、必要に応じて実施していく。〕

ミーナが迷子にならないために、そう、米田さんは心得ていた。

ミーナ（美奈子）は芦屋の洋館に住む会社社長の娘（小学生）で「私」（朋子、中学生）の従妹。米田さんは屋敷で長く働いているお手伝い。

もう一カ所、朋子が芦屋を離れることになり、市の図書館を訪れ、本と貸出カードも返そうとする場面です。とっくりさんは、図書館に勤務する青年。

「これは、返す必要なんかない」

とっくりさんはカードを私に差し出した。

「何の本を読んだかは、どう生きたかの証明でもあるんや。これは、君のもの」

私はうなずいた。

「春になったら、代わりに私の友だちが、新しい貸出カードを作りに来ると思います。（後略）」

読書の奥深さ——意味（異世界との出会い）と意義（人生との結び目）がこれほど簡明にスケッチされているものはそう多くはないでしょう。

読書通信のいくつか

そんなわけで授業はその後、読書会・ブックトーク・読み聞かせなどの実技・実践をグループワークとして行い、全体でのプレゼンテーションへと着地していきます。その合間を縫うように、コーヒープレイク感覚で「読書通信」を書き、学生に押し付ける所業も演じています。

◇「十六歳の日記」（川端康成）

この日記体小説の原形は、14歳の川端少年が唯一の家族・祖父を看取る日々の記録。少年にとっていちばん辛かったのは排尿の介護だった。

これくらい私に嫌な仕事はない。私は食事をすませて、病人の布団をめくり、浚瓶で受ける。十分経っても出ぬ。どんなに腹の力がなくなっているかが知れる。

だが、同じく排尿の世話をする別の場面では、有名な次の表現が見える。

「ああ、ああ、痛た、いたたたあ、いたたた、あ、ああ」おしっこをする時に痛むのである。苦しい息も絶えそうな声と共に、しびんの底には谷川の清水の音。

一方、こうした生活の中で少年はこんな思いを吐露している。

学校は私の樂園である。この言葉はこの頃の私の家庭の状態を最も適切に現わしてはいまいか。

「十六歳の日記」はまぎれもなく、家族の介護や家事に追われる子どもを描いた百年前のヤングケアラ小説である。

◇『J R 上野駅公園口』（柳美里）

◇『光の河』（道浦母都子）

2作を中心に「描かれる福島・フクシマ」としてまとめた。前者は前の東京五輪（1964年）の前年に出嫁ぎで福島から上京した男の物語。その間に故郷の家族が次々と亡くなる。男はやがて故郷を捨てて

ホームレスとなり、上野駅周辺を彷徨い、ついにはホームに自らを消し去る。結びには、未来の記憶（3. 11）が描写される。

引き波に持って行かれ、孫娘と二匹の犬を乗せた車が海中に沈んだ。…抱き締めることも、髪や頬を撫でることも、名前を呼ぶことも、涙を流すこともできなかった。…

後者は歌人の手になる小説。再会した昔の恋人の病状（甲状腺がん）を案じながら、広島（1945. 8）やチェルノブイリ（1986. 4）など、「核の痕跡」を訪ね歩き、歌に刻む女の物語。東日本大震災直後からは福島への思いに駆られる。

恐れつつ近付きゆけばチェルノブイリ

第四発電所は棺桶のごとし

地球人ホモサピエンスの墳墓とも

第四号炉の石棺そびゆ

西暦二〇一一年三月十一日午後二時四十六分

それより行方不明のわたくし

◇『永遠と横道世之介 上下』（吉田修一）

考え抜かれた筋立てとユーモア満載の文章。やはり快作と言うほかない。世之介が住む下宿屋がホームステイ先となったブータン人のタシさんが、宝くじ1億円当たったという話題に加わり、思いを語る。エバ（江原）はカメラマン・世之介の助手。

お寺に寄付します。…半額は現世のため。残りの半額は来世のため。…エバさんも、自分の欲しいものを買ったら幸せ。私も、誰かが幸せになれば幸せ。ほら同じ。…一番自分の得になるように使う。同じですよ。

結びは世之介の死から15年後の話。代々木駅ホームから落ちた女性を助けようと、留学生と二人、線路に降りて事故死。早産で赤ん坊が生死の境にあったエバに生前、世之介は手紙を手渡していた。

人生の時間ってさ、みんな少し多めにもらってるような気がするんだ。自分のためだけに使うには少しだけ多い。だから誰かのために使う分もちゃんとあって、その誰かが大切な人や困っている人だとしたら、それほどいい人生はないと俺は思います。…

横道世之介

手紙の効用——対話（二人称）、伝えたいという熱情がフルに発揮されている。

もう一つの読書通信

さて、手元には一冊の「私の読書通信」が残されています。履修した学生に課したレポートを、成果物として綴じ合わせたものです。選択した本（作品）——〈推し〉の読みどころが熱く語られています。そして裏面にはそれぞれ、図書館、読書、本、町の書店などに関する新聞記事が貼られています。

表紙になる「私の読書通信」リストを作成しながら、とっくりさんの言葉が浮かびます。「何の本を読んだかは、どう生きたかの証明でもあるんや」。

教員の本棚から

人間関係学科 講師 高梨 友也

『「100年ライフ」のサイエンス：老化はこうして制御する』

日経B P 総合研究所メディカル・ヘルスラボ 編著 日経B P 2020.11 (491.358/ニツ 2 F 一般書架)

「人生100年時代」と言われますが、どのような過ごし方をすれば、それは実現できるのでしょうか。本書の冒頭で、「現在の高齢者は、10年前と比べても5～10歳若返っている」とあります。そのように若返りつつ、100年に到達するのでしょうか。

本書の特徴としては、単に長寿対策や高齢者向けではなく、学生の皆さんを含めた若い人にも深く関係のある事柄について、科学の眼で分析し、わかりやすく解説しています。

それぞれの年代で、ご自身の「生き方」を一考する材料の一つにもしていただければと思います。

最終章である第4章において、「自分はどう生きたいのか」「自分の人生をどうデザイン生きたいのか」が大事になってくるとあります。

研究の先に見えているものは、日々の生活をどのように生き、その積み重ねである人生をどのように過ごしていくのかという「日常」なのかもしれません。

100年の人生を成立させ得る（と思われる）要件には何があるのか。どのように過ごすことが、その成立に近づけることになるのか。それらを様々な角度から分析しています。

（目次） 第1章 100年ライフを生きる基礎

第2章 老化研究最前線 老化制御はどこまで可能か？

第3章 賢人に聞く 健康寿命延伸のサイエンス

第4章 もっと先に進むために必要なこと 100年ライフの未来予想図

各章において多くのトピックから解説していますので、いくつかみていきましょう。

① 「人生を幸せに感じている人はそうでない人に比べ14%長生き」(p.16)

高齢者のなかには、「長生きしたからといって、幸せとは限らない」と話される人をしばしば見かけます。2011年の科学雑誌『Science』において、「幸福度が寿命にポジティブな効果をもたらす」ことが大きな話題になりました。幸福に感じている人はそうでない人に比べて14%長生きであることを導き出したそうです。何ををもって「幸福」と感じるか、これは若い人にとっても人生のテーマになるのではないのでしょうか。

② 「日本人だけが知らないスーパー栄養素・ビタミンDの真実」(p.92)

特に日本人に不足しがちな栄養素としてビタミンDとビタミンKを挙げ、前者は魚類を中心にキノコ類にも多く含まれ、後者はモロヘイヤなどの野菜や納豆に多く含まれるとしています。なかでも納豆の有効性については違う項目でも取り上げられていますが、紹介してくれた先生は実は納豆が苦手で食べられず、サプリメントで補っているとのこと。（そういうこともやはりあるのですね、なんか安心しました。）

③ 「7時間程度を目安に短すぎず長すぎない睡眠を」(p.128)

かつて理想的な睡眠時間は8時間と言われましたが、これには科学的な根拠はないそうです。必要な睡眠時間は個人差が大きく、どの年代でも平均して3時間程度の差があるとのこと。米国で30～102歳の110万人を6年間追跡した疫学調査からは、最も死亡率が低い睡眠時間は約7時間で、それより短くても長くても死亡率が高まったとのこと。短時間睡眠は頷ける気がありますが、長時間睡眠においても、何らかの健康上の理由で長時間睡眠が生じている可能性があるとのことでした。つまりどこか具合が悪くて、長く眠る必要があるのかもしれないということです。そういうこともあるのですね。

睡眠にはスマートフォンなどの光やカフェイン、アルコールなど、睡眠の質に影響する要素がたくさんあります。各年代で、配慮すべき点がありそうです。

本書のまとめでは、「最終的に私が言いたいのは「楽しく生きましょう」ということ。～（中略）どんな時代でもハッピーに生きる姿勢を持つことが大切で、科学はそのためにあり～」と締めくくられています。同感です。知識も、研究も、科学も、できるだけ多くの人ができるだけハッピーであるために活用されることを願ってやみません。その先に、ハッピーな「100年ライフ」があるものと思います。

図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

鈴木 翔太（人間関係学科1年）

『人生はニャンとかなる！ 明日に幸福をまねく68の方法』

水野敬也、長沼直樹 著 文響社 2013.10 (159.2/ミズ 2 F 一般書架)

皆さんは、猫は好きですか？猫といえば、かわいさやツンデレな一面を持っていますが、スヌーピーの作者であるアメリカの漫画家チャールズ・モンロー・シュルツは、猫について「もし道に迷ったら、一番いいのは猫についていくことだ。猫は道に迷わない。」という面白い言葉を残しています。猫はかわいくてツンデレなだけでなく、私たちに人生で大切なことを教えてくれるのかもしれない。

この本は、7つのカテゴリーに分けられていて、それぞれの分野に関する「大切なこと」を68個も教えてくれます。〈仕事〉や〈リラックス〉、〈人間関係〉など様々な方面から猫がアドバイスをくれます。そして、そのアドバイスの後には、たくさんの偉人のエピソードや名言が載っていて、読んでると今抱えている不安が和らぐ1冊となっています。猫好きの方、猫に癒されたい方、今や将来に不安を抱えている方はぜひこの本を手にとって読んでみてください。



上記の図書は図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。